

令和7年度第1回 益田市障がい者自立支援協議会 全体会次第

日時：令和7年7月31日（木）14:00～15:00

会場：益田市立市民学習センター 多目的ホール

1 開 会

2 福祉環境部長あいさつ

3 辞令交付

4 委員紹介

5 会長・副会長の選任について

6 益田市障がい者自立支援協議会の概要について

資料1

7 議 事

（1）第7期益田市障がい福祉計画、第3期益田市障がい児福祉計画の進捗について【報告】

資料2

（2）基幹相談支援センターの活動状況及び今後の予定について【報告】

資料3

（3）専門部会の構成について

資料4

（4）安心いきいきプランに基づき、優先して取り組むべき課題について

資料5

8 その他

9 閉 会

令和7年 第1回度 益田市障がい者自立支援協議会委員名簿 (R7.7.31)

所 属	職 名	委員名	備考
地域生活支援センター ポケットプラザ	所長	後藤 美穂子	
益田市障害者福祉センター あゆみの里	施設長	福原 直美	
障がい者支援施設 ラポール宝生苑	施設長	牧原 直也	
サポートセンター FOH	施設長	檜谷 佳誉子	
相談支援事業所 ぷらっと	管理者	池永 綾子	欠
あゆっこ益田	主任	古川 和子	
子ども支援館イレブン	館長	三浦 洋平	
株式会社ジャスティス・ジャパン きのこハウス	代表取締役	山口 育美	欠
NPO法人きずな ひまわり家	所長	若杉 康則	
益田市社会福祉協議会	地域共生社会推進部長	山鳥 一道	欠
障がい者支援施設 希望の里	施設長	藤井 誉志	
社会医療法人正光会 松ヶ丘病院	精神保健福祉士	小川 諒	
しまねリハビリテーションネットワーク益田ブロック (益田地域医療センター 医師会病院)	作業療法士	川崎 訓明	
島根県益田保健所	所長	梶浦 靖二	欠
島根県立益田養護学校	校長	落合 由美	欠
益田公共職業安定所	統括職業指導官	大槻 裕哉	
益田市身体障害者福祉協会	理事	中島 克仁	欠
益田市手をつなぐ育成会	監査	露口 慎二	欠
益田地域家族会	会計	澤江 功一	
益田圏域難病患者・家族連絡会	共同代表	水上 真一	
益田障がい者就業・生活支援センター エスポア	所長	中島 強志	
島根県西部発達障害者支援センター ウインド	副センター長	石田 英巳	
島根県益田児童相談所	判定保護課長	川本 広志	欠
益田市民生委員児童委員協議会	民生委員・児童委員	寺戸 弘明	

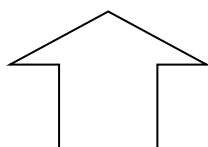
出席 17 名 欠席 7 名

●全体会 （開催頻度：年2回程度、構成員：協議会委員・基幹・市）

- ・地域課題を共有し、専門部会へ協議を指示
- ・施策提案
- ・計画の推進
- ・計画の進捗管理

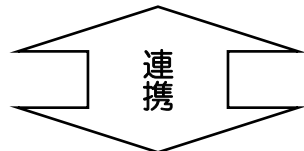


- ・施策提案
（行政へ）
- ・施策実施協力依頼
（関係機関等へ）



●運営会議 （開催頻度：随時、構成員：会長・副会長・部会長・副部会長・基幹・市）

- ・課題整理・分析
- ・専門部会・全体会の運営管理



●専門部会 （開催頻度：随時、構成員：各事業所等現場レベル・協議会委員）

- ・課題別に具体的な検討、検討結果を全体会へ報告
 - 障がい理解促進部会
 - 就労・社会参加支援部会
 - 障がい福祉人材育成部会

●相談支援会議 （開催頻度：毎月、構成員：相談支援事業所・基幹相談支援センター・市）

情報共有、事例検討、個別の課題検討

●精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム（コア会議）

（開催頻度：年3回、構成員：基幹相談支援センター・松ヶ丘・エスポア・社協・保健所・市）

第7期益田市障がい福祉計画・第3期益田市障がい児福祉計画進捗管理（R6年度）

※評価欄（A：目標を上回った、B：概ね目標どおり、C：目標を下回った、D：目標を大きく下回った）を記入

※現状分析・課題欄には、計画策定時からの状況の変化や計画達成に向けた取組課題などを記入

1. 福祉施設の入所者の地域生活への移行

（単位：人）

施設入所者数						地域生活移行者数		＜参考＞
R4年度末 時点 ①	R8年度末 時点 ②	目標 (R8年度末) ①－②	R06年度実績			目標 (R6年度末) ⑤	R06年度 実績 ⑥	新規入所者 (R06年度) ⑦
			R6. 3. 31 ③	R7. 3. 31 ④	削減人数 ①－④			
81	77	4	85	85	-4	5	0	3
評価		現状分析・計画達成のための課題						
C		在宅サービスの量的・質的充実が必要						

2. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

（単位：回）

	目標 (R6年度末)	R06年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
保健、医療、福祉関係者による協議の場の設置	3	1	C	今年度から自立支援協議会での位置づけで、エスポア、社協をメンバーに加え、新たなメンバーでコア会議を開催。益田市の現状と課題について出し合った。回数において目標達成できるよう計画的に実施していく。

精神障がい者の各サービス利用者数

（単位：人）

	目標 (R6年度末)	R06年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
地域移行支援	1	0	C	対象者の高齢化のため、病院から高齢者向け施設等での移行となるケースが多く、なかなか実績がない。
地域定着支援	2	0	C	対象者の高齢化のため、病院から高齢者向け施設等での移行となるケースが多く、なかなか実績がない。
共同生活援助	30	34	A	GH利用者は多く、ニーズは高い。GH利用者の高齢化は課題としてある。
自立生活援助	0	0	B	市としてサービスを実施していない。
自立生活援助 (生活訓練)	6	5	B	退院後、B型利用を始める前に、生活訓練を希望される方も多く、ニーズは高い。

3. 地域生活支援拠点等の整備

※設置数を記載

（単位：箇所）

	目標 (R6年度末)	R06年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
地域生活支援拠点等	8	8	B	①相談機能、②緊急時の受入れ・対応の機能は整備済
	目標 (R6年度末)	R06年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
地域生活支援拠点等が有する機能の充実 (検証・検討)	2	0	C	機能の充実の検証、検討する機会を設けることができなかった。
強度行動障害を有する者に関する支援ニーズの把握	無	0	C	ニーズの把握は行っていないが、個々人に応じた支援を行われるよう、会議等を重ねることで、支援の充実を図ることができた。
強度行動障害を有する者に関する支援体制の整備	無	0	C	支援体制の整備は実施できなかったが、サービス更新時に支援者と家族で会議をしたり、光風園や医療機関からの支援協力も得たりしながら、強度行動障害を有する者の支援の充実、支援の確認等を行うことはできた。

4. 障がい児支援の提供体制の整備等

※設置数を記載

（単位：箇所）

	目標 (R6年度末)	R06年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
児童発達支援センター	1	0	D	設置に向けた目途が立っていない。
保育所等訪問支援	1	2	B	
主に重症心身障がい児を支援する	児童発達支援事業所	1	B	
	放課後等デイサービス	1	B	
医療的ケア児のための協議の場の設置	設置済	設置済	B	

（単位：人）

	目標 (R6年度末)	R06年度 実績	評価	現状分析・計画達成のための課題
医療的ケア児支援のためのコーディネーターの設置	1	3	B	

5. 障害福祉サービス等見込量

(1) 訪問系サービス

	R06年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	時間	人	時間	人	時間	人		
居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援	885	117	841	98	95.0%	83.8%	B	

(2) 日中活動系サービス

	R06年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	人日	人	人日	人	人日	人		
生活介護	3, 234	176	3, 157	182	97. 6%	103. 4%	B	
自立訓練（機能訓練）	0	0	0	0	—	—	B	
自立訓練（生活訓練）	80	7	49	6	61. 3%	85. 7%	B	
就労移行支援	50	4	2	6	4. 0%	150. 0%	B	
就労継続支援（A型）	850	45	681	41	80. 1%	91. 1%	B	
就労継続支援（B型）	2, 486	153	2, 288	153	92. 0%	100. 0%	B	
就労定着支援	0	2	1	1	0. 0%	50. 0%	C	
療養介護	<div></div>	20	<div></div>	17	<div></div>	85. 0%	B	
短期入所（福祉型）	162	50	142	50	87. 7%	100. 0%	B	
短期入所（医療型）	5	1	10	2	200. 0%	200. 0%	A	

(3) 居住系サービス

	R06年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	人	定員数	人	定員数	人日	人		
自立生活援助	0		0	0	—		B	市内に事業所がなく、今後検討が必要。
共同生活援助 (グループホーム)	123		125	135	101.6%		B	退所者が少なく、新規入所が難しい状況。
施設入所支援	91		85		93.4%		B	退所者が少なく、新規入所が難しい状況。

(4) 相談支援

	R06年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み（人）	実績（人）	達成率		
計画相談支援	160	140	87.5%	B	見込み通り実施。
地域移行支援	1	0	—	C	サービスの必要性について検討が必要。
地域定着支援	2	1	50.0%	C	サービスの必要性について検討が必要。

(5) 障がい児を対象としたサービス

	R06年度						評価	現状分析・計画達成のための課題
	見込み		実績		達成率			
	人日	人	人日	人	人日	人		
児童発達支援	100	40	134	51	134.0%	127.5%	A	
放課後等デイサービス	1,400	100	1,430	131	102.1%	131.0%	A	
保育所等訪問支援	5	5	1	2	20.0%	40.0%	C	
居宅訪問型児童発達支援	—	—	0	0	—	—		
障害児相談支援	<div></div>	34	<div></div>	51	<div></div>	—	A	
市町村における医療的ケア児等の コーディネーターの配置人数	0	1	0	0	—	—		

6. 相談支援体制の充実・強化等

		R06年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
		見込み	実績	達成率		
総合的・専門的な相談支援(有:1 無:0)		1	1	100%	B	地域の相談支援体制の中核を基幹相談支援センターが担っている。
地域の相談支援体制の強化	地域の相談支援事業者に対する訪問等による専門的な指導・助言件数	60	2	3.3%	C	基幹相談支援センターが益田市障がい者自立支援協議会相談支援会議を活用して取組を実施
	地域の相談支援事業者の人材育成の支援件数	60	10	16.7%	C	
	地域の相談支援事業者の人材育成の支援件数	12	15	125.0%	A	
	地域の相談機関との連携強化の取組の実施回数	有	10	#VALUE!	A	

7. 障害福祉サービスの質を向上させるための取組

		R06年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
		見込み	実績	達成率		
障害福祉サービス等に係る各種研修の活用(参加人数)		1	2	200.0%	B	人数把握は行っていない。
障害者自立支援審査支払等システムによる審査結果の共有(有:1 無:0)		0	0	—	B	相談支援事業所と連携がとれているため実施予定なし。

8. 地域生活支援事業

	単位	R06年度			評価	現状分析・計画達成のための課題
		計画	実績	達成率		
1 理解促進研修・啓発事業	(有=1無=0)	1	0	—	C	部会での取組を行うことができなかった。
2 自発的活動支援事業	(有=1無=0)	1	0	—	C	取組実績なし。今後の取組として検討が必要。
3 相談支援事業						
(1) 障害者相談支援事業(実施箇所数)	箇所	5	5	100.0%	B	社会福祉協議会が実施する「入居債務保証支援事業」で同様の支援を実施している。
基幹相談支援センターの設置	(有=1無=0)	1	1	100.0%	B	
(2) 基幹相談支援センター等機能強化事業	(有=1無=0)	1	1	100.0%	B	
(3) 住宅入居等支援事業	(有=1無=0)	0	0	—	B	
4 成年後見制度利用支援事業(実利用者数)	人	0	0	—	B	対象者がいなかった。
5 成年後見制度法人後見支援事業	(有=1無=0)	1	0	—	B	ニーズが少ない。
6 意思疎通支援事業						
(1) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業(実利用件数)	件	230	208	90.4%	B	引き続き、募集を継続する。
(2) 手話通訳者設置事業(実設置者数)	人	4	3	75.0%	C	
7 日常生活用具給付等事業						
(1) 介護・訓練支援用具	件	4	2	50.0%	C	支給要件を満たす申請には、全て対応した。
(2) 自立生活支援用具	件	6	2	33.3%	C	支給要件を満たす申請には、全て対応した。
(3) 在宅療養等支援用具	件	8	10	125.0%	B	支給要件を満たす申請には、全て対応した。
(4) 情報・意思疎通支援用具	件	8	3	37.5%	C	
(5) 排泄管理支援用具	件	1,050	467	44.5%	C	支給要件を満たす申請には、全て対応した。
(6) 居宅生活動作補助用具(住宅改修費)	件	1	2	200.0%	B	講習者が令和7年度のため
8 手話奉仕員養成研修事業(講習修了者数)	人	15	0	—		
9 移動支援事業	人	60	49	81.7%	B	
(上段:実利用者数、下段:延べ利用時間数)	時間	2,460	1,820	74.0%	C	
10 地域活動支援センター	箇所	2	2	100.0%	B	
(上段:実施箇所数、下段:実利用者数)	人	70	63	90.0%	B	
訪問入浴サービス	件	2	2	100.0%	B	
日中一時支援事業	箇所	11	8	72.7%	C	
(上段:実施箇所数、下段:延べ利用時間数)	時間	3,100	2,588	83.5%	B	
点字・声の広報等発行事業実施件数	件	25	17	68.0%	B	
奉仕員研修事業	人	60	58	96.7%	B	
(上段:手話奉仕員登録人、下段:要約筆記登録人)	人	20	16	80.0%	B	
自動車運転免許取得・改造助成事業実施件数	件	2	2	100.0%	B	

令和7年度 益田市障がい者自立支援協議会 相談支援会議 活動状況及び今後の予定について

日程	1. 確認事項	2. 協議・伝達事項	3. 新規ケース	4. 取り組み	5. その他
4/17	<ul style="list-style-type: none"> GH わおん益田の家賃見直し、パンフレットについて GH ふぁみりえの部屋状況について 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の事例の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・父親と妹との関係性が悪く、母親が今後のことを心配している。県外での生活を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換：児童のサービス利用に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修について 障がい福祉課、研修検討委員会から研修参加について法人・各事業所へ協力をお願いをする。
5/15	<ul style="list-style-type: none"> ・GH ふぁみりえ満床、体験部屋1床は確保 ・ポケットプラザ3床は男性のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各会議への出席について（基幹相談） ・教育との連携について（ラポール宝生苑） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故にて右足切断、左脳梗塞により、高次脳機能障害となる。手帳に該当するので話を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換：総合支援課との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・GSVについて 今年度、事業所の順番と日時の確認。
6/23	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県立盲学校理療科：資料説明 ・6/21 高次脳機能障害家族会の様子について報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・終結したケースだった が再度ヘルパー利用希望あり、サービス利用がきちんと受けられるか。 ・連絡手段が限られ、今後どうすればいいか。 ・兄弟で関わりがある ・医療度は高いが病気や治療の認識が薄く、本人の特性を知った上で、関係機関と協力して、どう対応していくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換：教育と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の案内 ・刑を犯した人への支援について

7/17	・特になし	・新規ケースの情報提供について (基幹相談) ・福祉サービス支給決定到達者リストについて (市) ・令和7年度主任相談支援専門員養成研修について (基幹相談)	・小6、自己肯定感の低下、トラブル (いじめ) あり。関係機関から放デイの利用相談の提案あり。母親は学校の対応に不信感がある。	・事例検討：ひきこもりの本人に対して、同居家族が今後のことを心配している	・なし
------	-------	--	---	--------------------------------------	-----

4. 事例検討・意見交換

日程	年代	障害種別	事例内容・意見交換	担当	実施内容 (振り返り・事例検討後の状況)・地域課題など
4/17			○意見交換:児童発達支援から放課後等デイサービスへ移行して数年後 (小学生高学年以降) の適正なサービス利用についての利用者の受け止めと、放課後等デイサービス事業所側の受け入れ実態について	ラポール	<p>1. サービス利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員のアセスメントが反映されない計画相談:相談支援専門員が新規相談を受けた際、児童発達支援などのサービス利用が決まった状態で、あとは計画作成を依頼されるというケースもある。 ・サービス提供事業所からの意見を聞きつつ、相談支援専門員として伝えていき、会議などで終了することの話を行う。 ・個々の成長を見ていき、社会資源や福祉サービスを活用し、成長を見守る。福祉サービス利用に促われないアセスメントが必要である。 <p>2. 連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議は主催する場合とされる場合がある。 ・事業所訪問はモニタリング翌月などに行っている。 ・事業所と保護者でサービス変更の話をして、報告を受けたことがある。 ・就学前について、小学校にも声をかけ情報共有・意見交換をする。

5/15			<p>○意見交換：総合支援課との連携 益田市役所総合支援課、渡辺課長補佐、工藤社会福祉士 2 名参加</p>	基幹	<p>1. 総合支援課の説明 2. 質疑・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり、成年後見や虐待関係の対応 ・委託について確認 ・身寄りのない人が今後、増えてくる <p>※相談窓口に来所する人はパワーを使ってくる、話を聞いたうえで、一旦、受け止めつなぐ。たらい回しにならないよう、一度受け止めるなどをしていかないといけない。関係部署とは共有しながら取り組んでいる。</p>
6/23			<p>○意見交換：教育と連携 あゆっこ益田古川児童発達支援管理責任者、イレブズ三浦管理者 2 名参加</p>	基幹	<p>1. あゆっこ益田とイレブズの事業所の説明と取り組みについて 2. 意見交換</p> <p>①教育側からの放課後等デイサービス、相談支援事業所のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場での福祉サービスなどの認知度、周知について <p>②不登校支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・行政との連携 <p>※福祉サービス利用の壁が高い、障がいという書き方、保護者への労い</p>
7/17	20 代	ひきこもり	<p>○事例検討：ひきこもり支援、同居家族が今後のことを心配している</p>	そら	<p>1. ひきこもりの居場所支援として「さんぽ」の説明 2. 事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境変化、面談の回数を増やすの提案 ・家族との連携、家族の支援、キーパーソンの確認 など
8/21			○事例検討	ほっと	
9/18			○上半期の振り返り	基幹	
10/16			○事例検討	ぷらっと	
11/20			○事例検討	ポケット	
12/18			○介護保険・医療との連携	基幹	
1/15			○事例検討	基幹	
2/19			○下半期の振り返り	基幹	
3/19			○次年度の取り組み	基幹	

障がい理解促進部会活動報告

【資料４】

＜障がい理解促進部会＞ 部会長：中島 副部会長：望月

メンバー	中島 克仁（益田市社協）、望月 浩幸（希望の里福祉会）、野村 長典（はびねす福祉会）、 榎本 典子（松ヶ丘病院）、後藤 美穂子（ポケットプラザ）、野村 健（基幹相談支援センター）、 安部 利一（益田市身障協会）、水上 真一（家族会ひとまる会）、落合 由美（益田養護学校）、 寺戸 弘明（益田市民生児童委員協議会）、江角 彩楓（益田保健所）
今年度の 内容	○障がい理解、促進の啓発活動として、平成 30 年に部会で作成した障がい者マークの一覧表 をポスターにして、小中学校に配布する。
1 回目 2 月 12 日	今年度の取組について 今年度の啓発活動について協議 <ul style="list-style-type: none"> ・期間も短いことから、パンフレットやちらしを配布し啓発に努めたい。 ・対象範囲は、小・中学校。（あまり普及されていないところ） ・子どもが分かりやすく、楽しみやすいポスターを配布する。 ・予算については、見積作成し検討する。
事前協議 3 月 6 日	部会長、副部会長と協議 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター作成については、市の内部で印刷可能。予算は抑えられる。 ・小・中学校に配布する場合、定期的に行われる校長会に打診する必要があるため、今年度中 に配布するのは難しい。 ・第 2 回を開く予定だったが、ポスター配布等については、来年度以降になるため、部会を 開かず、文書にて対応することとしたい。
	（取組・成果） <ul style="list-style-type: none"> ・病院や施設については、障がい者マークの啓発はできているが、障がい理解の周知・啓発が 行き届いていない学校やお店に対し、活動を行いたい。 ・当事者の中で、ヘルプマークが普及してほしいという声もある。 （今後について） <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校に障がい者マークのポスターを配布することで、障がい理解の促進・啓発に繋がる。 障がい者マークのチラシやポスターを活用することで、引き続き障がいに関する理解の促進 を行う。

就労・社会参加支援部会活動報告

＜就労・社会参加支援部会＞ 部会長：隅田 副部会長：中島

メンバー	隅田 典宏（ひまわりの家）、中島 強志（エスポア）、狩野 秀夫（益田公共職業安定所） 山口 育美（株きのこハウス）、澤江 功一（益田地域家族会）、川崎 訓明（医師会病院）、 中本 春乃（益田保健所）、檜谷 佳誉子（F O H）、野村 哲也（ウインド）、 落合 由美（益田養護学校）
今年度の内容	○障がい者の社会参加支援活動として、障がい者が商業施設や交通機関を利用する際の「合理的配慮」啓発について協議を行った。
事前協議 12月3日	部会長、副部会長と協議 <ul style="list-style-type: none"> ・副部会長から、エスポアが実施した「障がい者就労アンケート調査」（企業向け）について共有。 ・前年度は益田西ロータリークラブと協力して就労の活動をしたが、今年度はロータリークラブ側の取組が不明なため、連絡があれば検討することとした。 ・部会長から、施設利用者がバスを利用した際のトラブルについて共有した。
1回目 12月16日	今年度の取組について <ul style="list-style-type: none"> ・事前協議での「バス利用トラブル」について委員と共有し、障がい者が社会参加する上での「合理的配慮」の重要性について確認した。 ・これまでは「就労」に活動の重点を置いていたが、今年度（そして来年度）については「社会参加」をテーマとする取組を実施する方向で確認した。 ・上記に対する取組として、講演会の実施、パネルディスカッション、障がい者向けの体験イベント等の案が出た。 ・令和6年度中の実施は困難という意見もあり、課題を共有した上で、実施に向けて検討していくこととしたい。
	（取組・成果） <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の交通機関利用時の困難さについて部会内で課題を共有し、商業施設や交通機関等の利用といった「社会参加支援」を今後の活動方針として確認した。 （今後について） <ul style="list-style-type: none"> ・社会参加支援に関する啓発活動について、実施方法や対象者等も含め、令和7年度の就労・社会参加支援部会にて協議を行う。

障がい福祉人材育成部会活動報告書

〈障がい福祉人材育成部会〉 部会長：牧原 副部会長：池永

日時・場所 メンバー	牧原 直也（ラポール宝生苑）池永 綾子（ぷらっと）、福原 直美（ほっと） 玉木 秀憲（児童相談所）、古川 和子（あゆっこ益田）、古川 沙緒里（益田保健所） 田中 綾子（益田市障がい福祉課）、清水 真琴（基幹相談）
今年度の 内容	○今年度取り組む内容について ・今までの振り返りと今後の部会について
1 回 目 12 月 26 日	○今年度以降の部会の在り方について ・第 1 期益田市障がい福祉人材育成プランについて (取り組み状況の確認) →平成 30 年人材育成部会発足、離職の問題、原因を探っていく。（アンケート実施） →アンケートの結果を用いて、システムづくりに反映。研修の企画、研修後の評価、パンフレットの作成など取り組んできた。 (意見交換) ・コミュニケーションの促進につながった（職場内の意見交換、他の事業所の人との交流、他を知るきっかけとなった）。 ・アンケートの評価はよく、研修を希望しているので継続して行ったらどうか。 ・冊子が事業所内でどこまで活用されているのか？不明。 ・部会だけで人材育成に取り組むには大きすぎる。枠組みが難しい、市の中で整理して、コーディネートしてもらった方がいいのでは。 ・人材育成に取り組まれている機関と協力して行うなど検討してみてもどうか。 ○その他 ・次回の部会で計画の評価を行う
2 回 目 1 月 27 日	○計画の評価 →コロナ活動制限の中、1. 2 は取り組めたと思う。（若い世代への研修（交流）、オンラインでの研修、既存の研修の見える化、冊子づくり）。 →アンケートについては、話す場、繋がる場が必要と感じた、他の人からいろんな話が聞けて良かったとコメントをもらい、研修の振り返りができて良かった。 →パンフレット（冊子）が事業所内で活かされているのだろうか？聞き取りを行う場合、法人の誰に確認するのがベストなのか？ 課題：今後、取り組んだ内容をどのように周知してくのか ○今後の取り組みについて 研修について ・次年度、研修を企画する。 ・対象者、日程、研修の内容を次回の部会で協議する。 ※事業所によって、聞きたいことや学びたいことが違う。研修参加についても職場の考えもある。 ※本人が研修を選べる仕組みづくりや出前講座などもどうかと意見が出る。 ○その他 市公式ホームページへ研修情報を掲載する。 ・研修について公式ホームページをもっと活用する（見える化）。
3 回 目 3 月 25 日	○次年度の取り組みについて検討する 年間計画と研修会開催にむけた内容等を協議

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム活動報告

【コア会議】

メンバー	益田市基幹相談支援センター：牧原直也、清水真琴　ここから相談所そら：檜谷佳代子 松ヶ丘病院：中村美穂　益田市社会福祉協議会：石田勝志　益田市障がい者就労・生活支援センター　中島強志　益田保健所：中村優　市障がい者福祉課：田邊祐美																
開催日・場所	日時：令和6年11月15日（金）　10：00～11：30 場所：益田市市民学習センター202号室																
今年度の内容	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議のプロセスシートを作成する中で、今年度は、益田市の精神保健・福祉・医療・就労等の課題について検討した。																
具体的な検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・益田市自立支援協議会での位置づけでのコア会議の開催が今年度初回であることを受けて、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムとは、今までの取組、今年度の体制について事務局より説明 ・岐阜県等で取り組んでいる「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議のプロセスシート作成過程（①個別支援における本人の困りごとやニーズを集める→②地域課題を出す→③課題ごとの目標を決める→④現状の取組とストレングスを把握する→⑤市として具体的な取組を決める）のうち①についてラベルワーク実施した。 <p>【ラベルワークの内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリー</th><th>ラベルの内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活上の問題への対応</td><td>・ゴミの整理ができない　・家事ができない　・清潔を保てない　・お金の使い方が分からない　・移動手段が限られている　・多重債務がある</td></tr> <tr> <td>地域・住まい・家族</td><td>・近所トラブルあり　・民間アパートに入れない　・大家、不動産業等の理解がない　・家族を含めた周囲の期待が高い　・家族が病気の認識がない　・精神障がいに対する地域の理解がない　・家族や親戚と疎遠</td></tr> <tr> <td>居場所・余暇・過ごし方</td><td>・一人は寂しいが、大勢のところは行きづらい　・買い物に一人で行けない、一人で選べない　・人込みが苦手　・週末の居場所が少ない</td></tr> <tr> <td>就労</td><td>・就労先で精神障害の事を理解してもらえない、企業の理解不足　・収入が少ない、工賃が安い　・一般就労の壁が高い、一般就労しても続かない　・就労ニーズはあるが現実が伴わない　・メンタルヘルスに関する人材育成、労務管理　・就労に向けたピアサポートの充実</td></tr> <tr> <td>障害福祉サービス</td><td>・GHが体験含めて少ない　・相談支援員を見つけるのに苦慮する、丁寧に関われない　・ヘルパーが少ない、希望通りの確保ができない　・地域移行が進まない　・入院中に長期外泊できる仕組みや場所がない　・退院後にすぐにサービス利用ができない（区分等に時間要）</td></tr> <tr> <td>医療との連携</td><td>・受診拒否、治療中断　・支援拒否　・退院後の不安、ここ（松ヶ丘病院）にいたい　・主治医から「やってみれば」と言われ、不安になる　・入院すると支援が途切れる　・個人情報の壁（連携がとりにくい）　・入院患者の高齢化により地域移行が進まない　・介護度が低い人の行き場がない</td></tr> <tr> <td>緊急対応</td><td>・夜間、週末、休日の相談対応が難しい　・緊急時の対応（医療・福祉） ・地域生活支援拠点の活発化　・緊急時の受け入れシステム</td></tr> </tbody> </table>	カテゴリー	ラベルの内容	生活上の問題への対応	・ゴミの整理ができない　・家事ができない　・清潔を保てない　・お金の使い方が分からない　・移動手段が限られている　・多重債務がある	地域・住まい・家族	・近所トラブルあり　・民間アパートに入れない　・大家、不動産業等の理解がない　・家族を含めた周囲の期待が高い　・家族が病気の認識がない　・精神障がいに対する地域の理解がない　・家族や親戚と疎遠	居場所・余暇・過ごし方	・一人は寂しいが、大勢のところは行きづらい　・買い物に一人で行けない、一人で選べない　・人込みが苦手　・週末の居場所が少ない	就労	・就労先で精神障害の事を理解してもらえない、企業の理解不足　・収入が少ない、工賃が安い　・一般就労の壁が高い、一般就労しても続かない　・就労ニーズはあるが現実が伴わない　・メンタルヘルスに関する人材育成、労務管理　・就労に向けたピアサポートの充実	障害福祉サービス	・GHが体験含めて少ない　・相談支援員を見つけるのに苦慮する、丁寧に関われない　・ヘルパーが少ない、希望通りの確保ができない　・地域移行が進まない　・入院中に長期外泊できる仕組みや場所がない　・退院後にすぐにサービス利用ができない（区分等に時間要）	医療との連携	・受診拒否、治療中断　・支援拒否　・退院後の不安、ここ（松ヶ丘病院）にいたい　・主治医から「やってみれば」と言われ、不安になる　・入院すると支援が途切れる　・個人情報の壁（連携がとりにくい）　・入院患者の高齢化により地域移行が進まない　・介護度が低い人の行き場がない	緊急対応	・夜間、週末、休日の相談対応が難しい　・緊急時の対応（医療・福祉） ・地域生活支援拠点の活発化　・緊急時の受け入れシステム
カテゴリー	ラベルの内容																
生活上の問題への対応	・ゴミの整理ができない　・家事ができない　・清潔を保てない　・お金の使い方が分からない　・移動手段が限られている　・多重債務がある																
地域・住まい・家族	・近所トラブルあり　・民間アパートに入れない　・大家、不動産業等の理解がない　・家族を含めた周囲の期待が高い　・家族が病気の認識がない　・精神障がいに対する地域の理解がない　・家族や親戚と疎遠																
居場所・余暇・過ごし方	・一人は寂しいが、大勢のところは行きづらい　・買い物に一人で行けない、一人で選べない　・人込みが苦手　・週末の居場所が少ない																
就労	・就労先で精神障害の事を理解してもらえない、企業の理解不足　・収入が少ない、工賃が安い　・一般就労の壁が高い、一般就労しても続かない　・就労ニーズはあるが現実が伴わない　・メンタルヘルスに関する人材育成、労務管理　・就労に向けたピアサポートの充実																
障害福祉サービス	・GHが体験含めて少ない　・相談支援員を見つけるのに苦慮する、丁寧に関われない　・ヘルパーが少ない、希望通りの確保ができない　・地域移行が進まない　・入院中に長期外泊できる仕組みや場所がない　・退院後にすぐにサービス利用ができない（区分等に時間要）																
医療との連携	・受診拒否、治療中断　・支援拒否　・退院後の不安、ここ（松ヶ丘病院）にいたい　・主治医から「やってみれば」と言われ、不安になる　・入院すると支援が途切れる　・個人情報の壁（連携がとりにくい）　・入院患者の高齢化により地域移行が進まない　・介護度が低い人の行き場がない																
緊急対応	・夜間、週末、休日の相談対応が難しい　・緊急時の対応（医療・福祉） ・地域生活支援拠点の活発化　・緊急時の受け入れシステム																

	カテゴリー	ラベルの内容
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス不調者の増加 ・本人が必要性を感じていない ・精神疾患を抱えながらの子育て支援への課題（ヤングケアラー、虐待等） ・自己理解の乏しさ
	情報発信・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちえぶくろ」のような冊子がほしい ・ホームページに事業所等アップしてほしい
	他地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者の情報がわからない ・転入者の状況が事前に分かるとスムーズな支援につながる
取組と今後について	<p>（取組・成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいメンバーで、新しい取組であったが、メンバーがたくさんのラベルを出してくださったおかげで、精神障がい者（児）を取り巻く様々な課題が分かった。 ・課題については、本人の生活上の課題から、就労、障害福祉サービス、地域・住まい等多岐にわたることが明確化された。カテゴリー別に分けたことで分かりやすくなった。 <p>（今後について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスシートを作成していくが、次回は益田市の強みを確認しながら、今後の取組を検討していくこととしている。 ・取組目標を年3回としているので、目標達成できるよう計画的に実施していく。 	

【資料5】

安心いきいきプラン（第6期益田市障がい者基本計画、第7期益田市障がい福祉計画、第3期益田市障がい児福祉計画）に基づき、優先して取組べき課題

頁数	課 題	理 由	取 組 等
P27	バリアフリー社会の実現	障がいに対する理解の促進、情報・コミュニケーションが重要。	障がい理解促進部会等
P28(1)	障害者差別解消法や合理的配慮について	多くの方に届くような啓発活動は引き続き必要と感じます。	障がい理解促進部会 益田市障がい者差別解消支援地域協議会 広島広域都市圏協議会等
P31(3)	市民を対象とした講演会等の開催による福祉教育の推進	市内で開催はされていますが、数が少ないのではと感じています。毎年、継続しても開催しつづけることが必要。	各部会等
P33(3)	災害時対応、個別支援計画等について		市、相談支援事業所等
P33(3)	災害時に迅速に障害者が避難できる地域づくり	災害時に障害者が助かるかどうかのカギは地域にあるため。	
P33(3)	緊急時、災害時の体制整備	災害時安全確保体制の整備について、福祉避難所に直接避難できる体制づくりや、特に医療的ケアは必要な方が確実に医療を受けられる避難先の確保を検討してほしい。	
P33(3)	緊急時、災害時の体制整備	障がいの特性により、ということが課題か現状把握が必要と考えます。	
P37,P54(5)	障がい児支援の提供体制の整備等	重度心身障がい児、医療的ケア児、行動障がいのある児童への適切な援助、支援が行われる体制の整備が必要と思われるため。	障がい福祉人材育成部会 益田市介護人材確保対策ネットワーク会議 福祉人材確保に係る作業部会等
P37,P54(5)	障がい児支援対策・子育て支援	対象者ニーズが高まっている。	
P37,P72	福祉人材の不足（無資格含む）	資格の有無に関わらず、募集しても来ない。働いている人も若い人が少ない為、人事配置や事業内容に苦慮する。	
P37,P72	児童発達支援・放課後デイサービス、保育所等訪問支援事業所の職員の人材確保と質の向上のための取り組み	研修会、福祉で働く人へ向けたパンフレットなど、スタッフの質の向上、離職の歯止め等を目的として取組んでいます。今後も継続して考えていかないといけないと考えます。	
P37,P72	居宅介護支援体制（時間外、男性不足等）		相談支援会議等
P37,P72	人材確保（事業所）	相談支援会議や重心、聴覚に携わるスタッフ、もしくは事業所が不足、ギリギリの状態であるため、長期的な目標（視点）を持ち、取組むことも必要と考えます。	
P39	地域生活支援体制の充実・多様なサービス提供と支援の充実	福祉サービスの充実により、地域で自立した生活が出来るよう、送れるよう支えることが必要。	相談支援会議等
P40(2)	地域生活の充実	障害者が安心して暮らすための地域づくりの推進をすすめる必要がある。そのためには訪問型を中心としたサービスの充実や地域住民の障がい理解の促進を含め普及啓発活動が重要であるため。	障がい理解促進部会等
P41(1)	必要な医療が受けられる体制づくり	ALS等の神経難病患者で、人工呼吸器装着や長期療養が必要になった方の入院・入所先がなく、市外へ流出している。住み慣れた地域で最後まで生活できる医療（介護）提供体制を検討してほしい。	相談支援会議等
P43	自立と社会参加の促進	学校を卒業後、一度は就労したものの、辞職してしまったり、事業所に行けなくなったりする例があります。働くことに向かえなくなった時の行き場、受け皿といった観点での市の状況を知りたいと思います。もし不十分であれば、整えていくことはできるものでしょうか。	相談支援会議等
P43	自立と社会参加の促進	雇用・就労の場面ではお手伝い出来るかと思います	就労・社会参加支援部会等
P43	保健・医療・福祉・教育・保育・就労分野での連携	連携が不十分に感じる時、どこまで介入すべきかなど不明確だと感じる所はあります。	相談支援会議等
P52(3)	地域生活支援拠点の整備について	その他の機能の整備についてすすめていない。緊急時の対応についてのふり返し、共有ができればよいかと。	市等
	生活支援	生活する障がい（不自由さ）を有する人は、個々の不安・心配事を抱いても、行政が縦割りで事務的处理（対応）で総合的に対応がないので、きめ細かな対応が出来かねている。従い、市職員が手帳などの申込み・相談を受けた際に、「他に心配事はありませんか？」という対応の配慮があるかないかで大きく違うだろう。市職員教育が必要である。	市等
	自死対策（ひきこもり・未就労）		市等
	地域で障がいのある方の余暇充実に向けての取組	部会と支援団体との連携や協働も必要ではないかと感じました。部会だけでは難しいのではないかと。	就労・社会参加支援部会等